

平成 27 年 8 月 3 日

お得意様 各位

日本精工硝子株式会社

代表取締役社長

小 西 慈 郎

「ミラノ万博」に参加して参りました（ご報告）

今年、5月1日から10月31日まで、イタリアのミラノで『食』をテーマにした万博が開催されています。

その中で、弊社三重工場の立地する三重県伊賀市が6月28日から6月30日までの3日間、日本館イベント会場にて「伊賀流忍者と食文化」を紹介する特別イベントを実施することを受け、弊社は7名を現地に派遣して伊賀市のお手伝いをしてまいりました。

今回のイベント協賛の目的

- ① 伊賀の食文化やNINJAを紹介し、伊賀市への外国人観光客誘致に貢献する
- ② オリジナルの忍者ボトルに詰めた伊賀酒を世界中の人々に味わってもらい、同時に日本製のガラスびんの素晴らしさを世界に発信する
- ③ クールジャパンを推進している日本政府や、万博に参加している数多くの日本企業にガラスびんの魅力を再認識してもらう

イベントの主な内容は、忍者ショーの実演と、「かたやき」「和菓子」「漬物」「伊賀酒」等の伊賀の食文化のふるまいで、三日間で約1万人の観客動員を実現しました。

弊社は4種類の「オリジナル忍者ボトル」（別紙）を作成し、延べ3,500名の来場者に伊賀酒をふるまい、非常に大好評を得ました。

伊賀市にとっても、またミラノ万博に直接参加した唯一の日本のガラスびんメーカーとしても、まさに大盛況、大成功であったと確信しております。

今後とも皆様方の御要望にお応えし、さらに素晴らしい製品作りに取り組んで参りますのでより一層の御指導ご鞭撻を弊社に賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

以上 略儀ながらご報告まで



現代の忍者たち、活躍

伊賀のPR手応え

【ミラノ】中山梓 本気で忍者は、海外で人気なのだろうか。取材のついでにイタリア・ミラノの大聖堂近くの書店で探してみると、子ども向けのおもちゃコーナーで早速「NINJA」の文字を発見した。忍びを研究する三重大学文学部の山田雄司教授は「耐え忍んだり、工夫して道具を作ったりする精神は日本文化をよく表している」と話す。ミラノ万博日本館にもたくさん忍びが現れた。さて、忍びに变身した市職員ら、現代の忍者たちは、どんな動きをしたのか。



い物までスタッフは対応に追われた。市観光戦略課の山管敦史さん(30)は「イベントは現場の人の表情を見て変えていくもの。今回は不安もあったが、こちらから話しかけていけば言語の壁があっても答えてくれた」と話す。

最終日の三十日。こっそりおとすと、案内のために作った忍者や、書きを貼りだし、配布伊賀に関するイタリアした。来場者の案内に語などのパンフレット、加えて会場の設営、伊賀を多くの人に持って帰る牛の調理、掃除、洗



試食や組みひも、伊賀焼の器が並んだコーナーでは通訳が熱心に説明した。いずれもイタリア・ミラノ万博会場で。(中山梓撮影)



特製瓶をプレゼントする小西社長(左)

忍者をデザインした特製瓶を手掛けた日本精工(株)からは小西社長(50)ら七人が現地を訪れ、酒蔵の法被姿や忍者姿で「フレイゴ(ごうぞ)」と酒を振る舞った。現地を訪れたのは、取締役の前



◎来場者らがショーを楽しむ様子を見守る表情で見つめる市職員ら
◎伊賀焼のおちよこで伊賀酒を振る舞う日本精工(株)の社員

で「なぜミラノに行きたいのか」をスピーチして選抜された社員たち。西田研太さん(30)は「西明寺」は「イタリヤ人は陽気で、ジェスチャーだけでも伝わって、相手の目を見て、笑顔で話すように心がけた」と話す。ずっと来場者と交流し続けていた小西社長は「伊賀の酒を届けてくれる人がいる」と話した。関係者は、来場者の反応の良さを肌で感じ、こころ願った。「外国人が万博から帰った後、どこかで伊賀の話をしてほしい」

